C シリーズ - Cisco 12G SAS モジュラ RAID コントローラで JBOD を有効にする

内容

<u>概要</u> <u>前提条件</u> <u>使用するコンポーネント</u> 設定

概要

このガイドの目的は、C シリーズ サーバ内の Cisco 12G SAS モジュラ RAID コントローラ上で Just a bunch of disks(JBOD)を設定する方法を示すことです。

警告:

*JBODディスクは、RAIDコントローラのハードウェアキャッシングを利用できません。

http://www.redbooks.ibm.com/redpapers/pdfs/redp5234.pdf (RAID/JBODに関する一般的なドキュメント)

*これらのディスクでキャッシュが必要な場合は、それらをRAID 0アレイ(ストライピング)に入れてOSに提示することができます。RAID0にパリティが存在しないことを思い出してください。RAID 0に追加されるディスクが多いほど、障害ドメインが大きくなり、1つのディスク障害により全ディスクでデータが失われる可能性が高くなります。 これはRAID 0の特性です。優れたパフォーマンスを実現し、1つのディスク障害にも耐えることができません。 ただし、一部のアプリケーションやユースケースでは、この操作が可能です。

前提条件

- Cシリーズサーバ
- Cisco 12G SASモジュラRaidコントローラ
- 1台以上のHDD
- CIMC/KVMへのアクセス

使用するコンポーネント

- ◆ 2.0(6d) CIMCを実行するCisco C240-M4
- 4.250.00-3632を実行するCisco 12G SASモジュラRAIDコントローラ

設定

安全性の確保のため、既存のRAID構成がある場合は、これらの変更を行う前に、その仮想ディスク(VD)のデータをバックアップしてください。

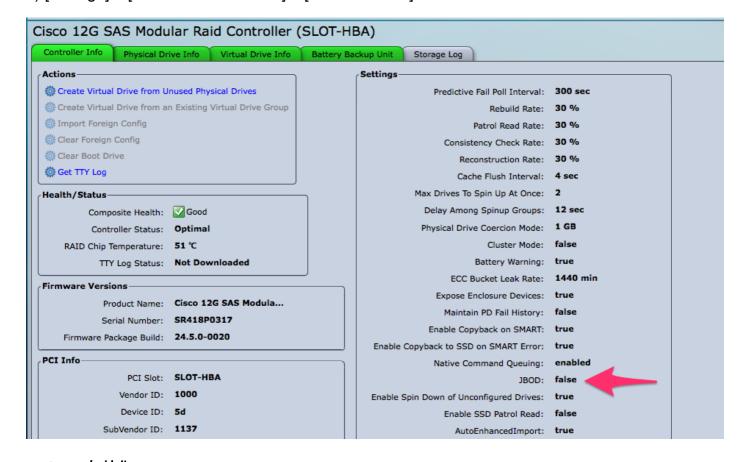
たとえば、保持する仮想ディスク(VD)、RAID 1がある場合、JBODを有効にした後も設定を保持する必要があります。ただし、起動前のRAID設定メニュー(Ctrl+R)を入力してJBODを有効にするには再起動が必要です。

このドキュメントの執筆時点では、JBODはデフォルトでコントローラ上で無効になっており、 CIMC経由では12Gコントローラ上で有効にできず、起動前のRAID設定メニュー(CTRL+R)でのみ 有効になっています。

すべてのディスクをJBODにするには、RAID上の既存の仮想ディスク(VD)を削除します。これにより、物理ディスク(PD)が「Unconfigured Good」にリリースされます。 これは、CIMCまたはCTRL+RのプリブートRAID設定メニューから実行できます。これは、削除した仮想ディスク上のデータを削除し、それに応じて重要なデータをバックアップすることを想定しています。

JBODがすでに有効か無効かを確認します。

- 1) CIMCにログインします。
- 2) [Storage] > [Select 12G controller] > [Controller Info]タブをクリックします。

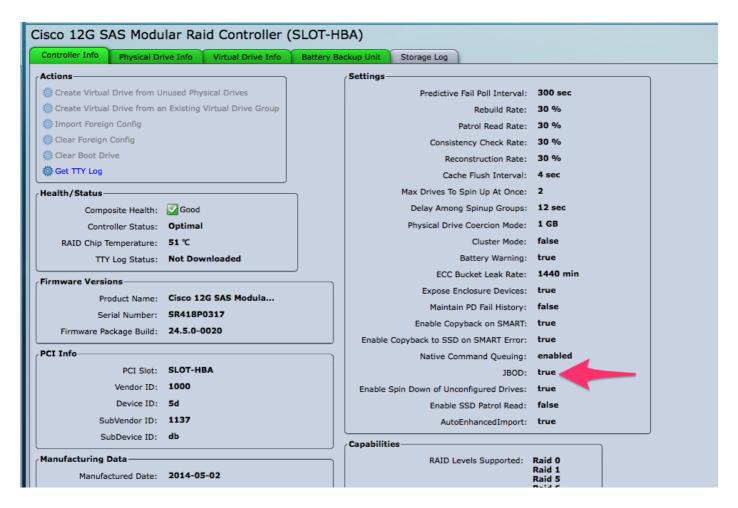


JBODの有効化

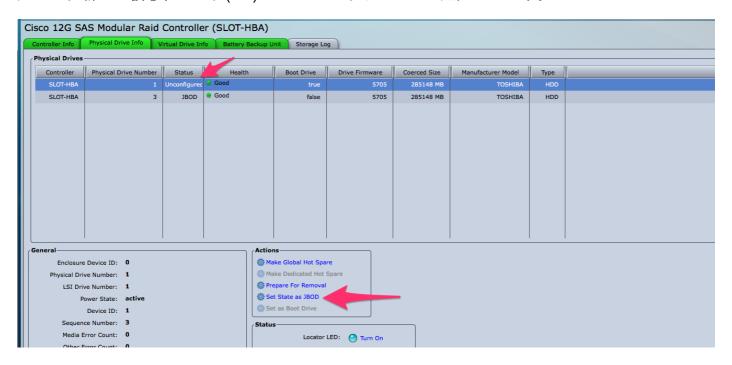
- 1)無効にした場合は、ホストを再起動し、Ctrl+Rキーを押してRAID構成画面に入ります。
- 2) Ctrlキーを押しながらNキーを2回押し、[Enable JBOD]に移動して[space]を押します。 角カッコに[X]が表示されていることを確認します。
- 3) Ctrlキーを押しながらSキーを押して保存します。



- 4) Escキーを押して終了します。
- 5)これは利用可能なすべてのディスクをJBODに変換します。私のテストでは、VD(RAID 1)に割り当てられたPDをJBODに変換せず、私のOSはそのRAID 1を引き続き使用していました。
- 6) JBODが有効であることを確認します。



仮想ディスク(VD)が存在しない場合は、いくつかのディスクを「Unconfigured Good」として設定して、新しい仮想ディスク(VD)またはRAIDボリュームに追加できます。



これで、CIMC内からディスクを「Unconfigured Good」(RAIDに追加可能)または「JBOD」に切り替えることができます。

VD/RAIDグループのメンバであるPDに対しては、JBODに変換するオプションはありません。 PDをJBODディスクに変換するオプションを取得する前に、PDをVD/RAIDグループから削除する 必要があります。